

2025 年度

人権作品集

ちがいこそ

尊重し合う

大切さ

「人権」に関する標語選定作品 中学三年生



人権に関するポスター選定作品
小学5年生

あなたを
助けたいの

あなたに
助けてもらいたいの

勇気を出して
言ってよかった

人権に関するポスター選定作品
中学3年生

見ていても

行動しないと

変わらない

「人権」に関する標語選定作品 小学六年生

はじめに

名張市・名張市教育委員会・名張市人権啓発まちづくり事業推進会議では、日常の家庭生活や学校生活、社会生活などでの体験を通して実感された、人権を守ることの大切さや、社会に残る様々な差別や不合理な偏見をなくしていくことへの思いを表現した人権作品を、市民のみなさまから募集しています。

本年度も、小学生・中学生・高校生をはじめ市民のみなさまから、作文・標語・図画・ポスター・メッセージの作品を、合わせて一〇、四〇八点ご応募いただきました。たいへん多くの方々に、人権作品にお取り組みいただきました。ありがとうございました。

ご提出いただいた作品の中には、家庭や学校・社会生活で自ら体験したことや感じたこと、そして学習で学んだことを通して、人権尊重の大切さや、差別をなくしていくための意見、感想が述べられているものや、自分自身を振り返り、差別をなくしていくとする姿勢や意欲が伝わってくるものが数多く見られました。

この作品集は、ご応募いただいた作品の中から、作文十作品、標語十三作品、メッセージ五作品、図画・ポスター二十作品を選定し、掲載しています。本誌を、人権について考えるきっかけとするとともに、さまざまな学習の場でご活用いただければ幸いです。

なお、これらの作品の中から、図画・ポスターの一作品、標語の一作品を人権啓発用ティッシュに、そして、図画・ポスター八作品、標語五作品、メッセージ一作品を二〇二六年の人権カレンダーのデザインとして活用させていただきました。ありがとうございました。

目次

作文

【小学生の部】

- もつともだちいっぱい
- 人のためにこうどうすること
- わたしの弟
- からかわないで、自分のこせい
- 人と人のつながり
- わたしのこと
- 大切な命
- 人とつながるということ

学年	ページ
一年生	4
二年生	5
三年生	6
四年生	7
五年生	8
五年生	9
五年生	10
六年生	11

【中学生の部】

○LGBTQについて

一年生・・・12

○集団での陰口による「いじめ」をなくすために
自分ができること

三年生・・・13

標語

【小学生の部】

【中学生の部】

メッセージ「あなたの大切な人へ」

・・・14
・・・15
・・・16

【高校生・高等専門学校生・一般の部】

図画・ポスター

【小学生の部】

・・・17

【中学生の部】

・・・20

作文【小学生の部】

もつともだちいっぱい

（小学一年生）

わたしは、しょうがつこうにゆうがくしたら、ともだちをたくさんつくりたいなとおもっていました。なぜかというと、ともだちがおおいほうがたのしいことがいっぱいあるとおもうからです。

にゆうがくしきのとき、おかあさんとAちゃんのおかあさんはなしをしていました。わたしもゆうきをだして、Aちゃんにはなしかけてみました。だけど、そのときはどきどきしてうまくはなせませんでした。四がつ、Aちゃんとは、せきがとなりどうしになりました。じゅぎょうで、ペアではなしをするじかんがありました。なんかいもAちゃんとペアではなしをしていると、だんだんとはなしができるようになりました。やすみじかにAちゃんが、

「いっしょにあそぼう。」

といっしてくれました。

「いいよ。」

といって、いっしょにあそびました。こころがぽかぽかしました。

でも、Bちゃんに、

「いっしょにあそぼう。」

といわれたときは、ことわってしまいました。わたしがたいせつにしていたえを、Bちゃんがかってにとつて、なかなかかえしてくれなかったからです。Bちゃんとは、これからとなりのせきになるかもしれません。いっしょのグループになるかもしれません。

なかよくしたいのに、「いっしょにあそびたくないな」とおもったじぶんのことが、いやになりました。

わたしとBちゃんのようにすをみたせんせい、Bちゃんとはなしをしようといいました。Bちゃんとはなしをして、Bちゃんがわたしのことをだいすきなともだちだとおもっていることをはじめてしりました。わたしといっしょにあそびたくて、えをとつてしまったということも、はじめてしりました。Bちゃんは

「ごめんね。」

と、あやまつてくれました。わたしは、はなしあいをしてよかったとおもいました。はなしあいをしなかったら、「Bちゃんはわたしのえをとったこ」とおもつて、ずっとおもやましたままでした。でも、はなしあいをしたから、もやもやのこころがぱつとあかるくなりました。つぎから、Bちゃんに、「あそぼう」といわれたら、きもちよくあそべるとおもいました。

わたしはいままで、ともだちといやなことがあると、ともだちとはなしあうことを、しませんでした。だけどこれからは、「いやだな」とか「いじわるだな」ときめつけずに、はなしあいをしてともだちのきもちをしりたいとおもいました。ともだちとなかよくなりたいきもちをいつまでもたいせつにして、もつともつともだちのきもちをしっていききたいとおもいます。

人のためにこうどうすると

(小学二年生)

二年生のある日、ぼくが学校からかえろうとして、てい学年げんかんに行ったら、友だちがぼくの外ぐつをはきやすいようにおいてくれていました。ぼくは、

「ありがとう。」

と、言いました。ぼくのために友だちがこうどうしてくれたので、とてもやさしい気持ちになりました。その友だちとは分だんがちがうので、わかるまでいつしよに行きました。ぼくも、友だちのまねをしようとそうぞうしたら、ちよつと気持ちがよくまりました。たくさん人のためにこうどうして気持ちがよくなりたいです。

ほかに、ある日、学校でかえりのよういをしている時、友だちがぼくのタブレットをじゅう電するところからもってきてくれました。ぼくは、

「ありがとう。」

と言いました。友だちがタブレットをもってきてくれたおかげで、ぼくはかえりのよういを早くおわらせることができました。この時も、ぼくのために友だちがこうどうしてくれたので、とてもうれしい気持ちになりました。

二年生のどうとくのじゅぎようで、「本がかりさん がんばっているね」をべんきようしました。このお話は、本がかりさんが休み時間もしごとをしていて、わたしたちも休み時間あそびたい、めんどくさい、となるけど、それでもつづけたらクラスの子にかんしゃされて、いい気持ちになるといってお話です。このべんきようをして、人のためにこうどうすることはとてもいいことだということがわかりました。このべんきようをした時、ぼくはぼくのためにこうどうしてくれた友だち二人のことを思い出しました。あ

の時友だちがこうどうしてくれて、とてもうれしい気持ちになったことをおぼえています。

これからは、ぼくも人のためにたくさんこうどうしたいです。友だちのまねをして、もつといい気持ちになりたいし、人にもうれしい気持ちになってほしいからです。あと、友だちからしてもらった時は、

「ありがとう。」

も言いたいと思います。

わたしの弟

(小学三年生)

わたしには弟がいます。弟は一年生ですが、わたしとはちがう学校に通っています。

弟は生まれてから大きくなっても、なかなかしゃべりだしませんでした。ふしぎに思ってお母さんに、

「なんで弟はしゃべれないの。」

と聞きました。そのときにはじめて、弟に頭のびよう気があることを知りました。お母さんから弟のびよう気のことを聞いて、「そうなんや。頭のびよう気ってなんやろ」と思いました。

弟はうまくしゃべれないので、わたしとはちがう学校でことばの練習をしています。家でも、

「パパ、ママ。」

とわたしのまねをしたり、家ぞくのまねをしたりしています。自分からしゃべることはあるけど、

「たたた。」

と言いながら指をさしたり、とびはねたりするぐらいです。自分の気もちを言うのはにがてです。でも、気もちを表すことはできます。うれしいことがあったときは、え顔でわたしにとびついてきます。それがとってもかわいいです。わたしがちよつかいかけると、

「ああー。」

と言っておこりだします。

わたしは、弟のことをうらやましいと思っていました。わたしと弟がけんかをしたときに、わたしばかりおこられて、弟はあまりおこられないからです。ある日の夜に、わたしはお母さんと、

「なんでわたしばかりおこられて、弟はおこられへんの。」
とけんかになりました。そして、

「わたしも弟みたいに頭のびよう気になったらおこられへんの。」
とも言いました。お母さんもおこりました。

お母さんとけんかしたあと、お母さんが一さつの本を買ってくれました。お母さんは、わたしに弟のびよう気のことを知ってほしいから本を買ったと話しました。その本を読んでみました。ちよつとだけ、弟のびよう気のことわかりました。また、その本のさい後には、弟と同じびよう気の子が、友だちと楽しそうに遊ぶ絵がかいてありました。わたしはその絵を見て、弟も友だちとなかよく遊べていたらうれしいなと思いました。

わたしは、その本を今でも大切に持っています。友だちが遊びに来たときは、その本を友だちに読むこともあります。そのとき友だちは、しずかにお話を聞いてくれました。うれしかったです。弟のことを少しわかってもらえたと思いました。

今でもけんかをすることもあるけれど、わたしは弟のことが大好きです。わたしの弟は世界一の弟です。

からかわないで、自分のこせい

(小学四年生)

わたしは、自分のこせいをからかわれたことがあります。わたしは、きつ音です。ほいく園で声がつまったとき、

「今何て言った？遊そつそそつそぼぼーうって。」

と、まねされました。そして、わらわれました。わたしは、「やろうとしてやっていないのに、わらわないでよ。」と思いました。とても悲しかったです。でも、言ったらまたまねされると思ったので、言いませんでした。からかわれたことをお母さんやお父さんにも言いませんでした。それは、友だちがおこられると思ったからです。

わたしは自分と同じきつ音の子を見たことがなかったので、不安でした。お母さんが絵本を見せてくれました。それは、きつ音の子がかかっている絵本です。

「この子はAちゃんと同じだね。この子はちよつとちがうね。」と、やさしく話をしながら読んでくれました。きつ音のことを知ることができて、少し安心しました。

そして、小学校に入学しました。小学校では、きつ音をわらう人はいませんでした。安心しました。みんなきつ音を受け入れてくれました。一番なかよしの友だちは、わたしのペースに合わせて話したり、つまっても最後まで待つて聞いたりしてくれます。「それはAのこせいだから」と、やさしく待つてくれます。とてもうれいす。そんな友だちに会えてよかったです。わたしは、「きつ音があつてもいいのかな。」と、思いました。友だちや家族は、

「みんなとちがうところがあつてもいいよ。」と、やさしく毎日

言つてくれるので、そんな友だちや家族が大好きです。

さい近、自分でいろいろな動画を調べて見ています。きつ音の説明やきつ音の人がしようかいされてる動画です。調べた動画で初めて自分以外のきつ音の人を見ました。きつ音の人が自分以外にもいることを知つて、「自分と同じ子がいるんだ。」と、安心しました。みんなとちがうところがあつていいのかなと思ひました。

わたしは、本を読むことが大好きです。一人で音読をするときや教室で丸読みをするときに、声がつまったり出なかつたりすると、いやになつて教科書をやぶいてしまうこともありました。だけど、今は「みんなが待つてくれる」と、安心して最後まであきらめずに読むことができます。それは、きつ音を「わたしのこせい」と受け入れてくれたみんなのおかげです。みんなにもそれぞれこせいがあると思ひます。みんながわたしのこせいを受け入れてくれたように、わたしもみんなのこせいをありのまま受け入れたいです。

人と人のつながり

(小学五年生)

私は、一時期陰口を言われていました。それに乗っていた子もいました。全く気づいていない子もいたと思います。また反対に、私が陰口を言われていることに気づいて、止めようとしてくれた子もいました。陰口を言っていた子の一人にどうしてそんなことを言うのかと聞きました。するとその子は「自分は陰口など言っていない」と言いました。私はその言葉を信じていました。ですが、後になってそれはうそだったということがわかりました。それを知ってとてもショックでした。その後、その子と話して、謝罪もされて、和解しました。ですが、しばらくはどうしても「あの時陰口を言ってきたくせに」とか「なんであんなこと言われなければならぬのか」と思ってしまうしました。その子と会うたびに「やもやとした気持ちになったし、嫌な気持ちにもなりました。表面上は和解できても、かなりの間ひきずってしまいました。」

人と人との関係はとても大切なものです。人は人とつながるために生まれてきたと言ってもいいぐらいだということを聞いたことがあります。本当にそうだなと思います。ですが、人と人との関係は一度切れてしまうと修復するのに時間がかかります。二度と仲が戻ることはないかもしれません。もし仲が戻っても相手の心には、深い傷が残るかもしれません。いじめや差別は、人と人との大切なつながりを切ってしまうものです。そして相手を深く深く傷つけるものです。いじめや差別のせいで、それがトラウマになってしまつて、人と関わるのがすごく怖くなってしまうかもしれません。簡単に、相手の陰口を言ったり相手を傷つけるようなことをすることは絶対に良くないことです。誰かが陰口を言っているとき、それに乗ってしまったら、もうそれは自分も陰口を言った人と同じだと思います。ちよつと反省した程度で終わらせてはいけません。でも、ほとんどの人は、そんなことを考えずに簡

単に陰口を言ってしまいます。だから、何か発言をするときは、その言葉は、本当に言つて良いのか、そう発言をして、相手が悲しくないか、そう考えてから発言するのが大事だと思います。

でも、自分の周りにいじめられている人がいたら、私は、すぐにその子を助けられるか自信がありません。助けたら、今度は自分がいじめられるかもしれない、そう思つて助けられないかもしれない。陰口を言われてとても嫌な思いをしたのに、自分の中には、そんな「弱い自分」もあります。でも、一人では無理でも、誰かと一緒に助けられると思います。友だちでも先生でも家族でも、一人だけでないなら、一緒に声を上げられると思います。すごく心強いと思います。そんなつながりを増やしていきたいです。

わたしのこと

(小学五年生)

みなさんは、自分のことが好きですか。

わたしは、三年生の時から自分の身長が低いことにコンプレックスをもっていました。同級生だけでなく、下の学年の子たちにも、時どきいじられたりして、仲がよくても、そうでなくても、自分の気にしていることを言われるのってすごく傷つくし、悲しいなと思っていました。

わたしは、身長が低いと不便だなと感じることがあります。例えば、高いところにあるものはいすに乗って取らなくてはいいし、黒板の高いところにはほとんど手が届きません。今年五年生になって、みんなはどんどん背が伸びて、自分だけ小さいままなのかなと思ってしまうことがあります。最近も、私が下校していた時、後ろにいた子たちが、

「前の子は三年生かな。」

と話しているのが聞こえてきました。その言葉はわたしの心につきささりました。その子たちは、小さな声で、わたしに聞こえないように話していたし、もしかすると三年生ではなかった時に、傷つかないように考えていてくれたのかもしれない。だから悪気は、ないのかもしれないけど、その時のことは今も忘れることができません。

わたしの友だちにAちゃんという子がいます。Aちゃんは、わたしのクラスで一番背が高い女の子です。勉強が得意で、いつもテストでは満点や、満点に近い点数ばかりで、友だちが困っていたら、よく助けています。帰りの会の「いいところ見つけ」では、Aちゃんのことを言う子がたくさんいて、なんだか自分とは全然

違うなと思っていました。一学期の途中に席替えがあつて、わたしはAちゃんと席が近くになりました。そこで、思い切つて自分の身長のことを相談してみました。いつも優しく友だちと話しているAちゃんを見て、自分の気持ちをわかってくれるかもしれないと思ったからです。Aちゃんは、

「そんなことないよ。身長は小さい方が小がらで守りたい気持ちになるし、わたしは、小さい方がいいなって思うけどね。」

と返してくれました。その言葉で、わたしはとても救われた気がしました。そして、心が温かくなる感じがしました。後で知つてとてもおどろいたけれど、Aちゃんは、自分の身長が高いことをずつと悩んでいたそうです。身長が高いことで、小さいころからばかにされたり、笑われたりしたことがあつたそうです。でも、四年生の時に新しい友だちがたくさんできて、「勉強できるね。やさしいね。」と自分のことをほめてもらつて、気持ちが前向きになつたのだそうです。Aちゃんがわたしにしてくれたことは、Aちゃんが友だちからしてもらつたことなのだと思います。今は、自分身のことも少し前向きに考えられるようになりました。そして、今度は自分が、Aちゃんのようになれたらなと思いました。

大切な命

(小学五年生)

一学期の社会で、日本の農業、食料自給率の学習をしました。ぼくは、日本の食べ物の自給率の低さにとってもおどろき、興味をもちました。

生きている牛やぶたの肉が、ぼくたちのご飯になるまでをくわしく知りました。おいしいものが食べられるのは、数え切れない「だれか」がいるから。その「だれか」の支えで、ぼくたちのくらしは続いています。大切なのは「知ること」。知って「思うこと」。いのちはかけがえのないそんな在だということをお教えます。

一番心に残っているのは、「牛やぶたは、どこで、どんなふうにくるさるだろう?」「だれがころすのだろう?」「だれが解体するのだろう?」というところです。なぜかという、ぼくは今までそんなことを考えたことがなかったからです。だから、生きている牛やぶたが、パックに入れられてお店にならぶまでの「あいだ」を知りたいと思いました。

生きている牛やぶたが、ころされて解体される作業の流れを知った時、ぼくはこわくなって鳥はだが立ちました。続きを知るのもこわくなりました。ぼくが職人さんだったら、動物をころしてしまった罪悪感で、次の日から仕事に行けないくらい苦しくなると思います。だからぼくは、生きている動物をころすことなんて絶対にできません。職人さんもそんなことをしたいわけではないと思います。とても勇気のいることだと思います。でも、ぼくたちが肉を食べるためには必要なことなので、ぼくはたくさん感謝をしたいです。

スーパーにぶたの頭や足や、こぶたが丸ごと一頭、冷凍されて売っているのを見ることがあります。初めて見た時は、ちよつとこわかったし、かわいそうだなと思いました。その時は、ぶたの

気持ちしか分からなかったけど、生きている動物がお店にならぶまでの「あいだ」を知った今は、職人さんの気持ちも分かるようになりました。ぼくたちが生きるためにたくさん「いのち」をぎせいにしていることを知りました。牛やぶたがころされる理由は、ぼくたちが食べるからです。牛やぶたの苦しみや悲しみを知らない、平気で肉を残したり、捨てたりして「いのち」を無だにしてしまいます。ぼくは、賞味期限が近い値引き商品を何点か買うと、日用品やおかしがもらえるスーパーへ行ったことがあります。フードロスを少しでも減らせるし、お客さんにとってもうれしいことだし、食べ物大切にできるのでとてもいいことだなと思いました。肉だけではなく、魚や野菜や果物も「いのち」です。生活をするためのすべてのものにも、たくさん「だれか」の支えがあることを忘れないようにしたいです。ぼくはこれから、たくさん「だれか」や「いのち」に感謝しながら、どんなものも大切にして生きていきたいと思います。

人とつながるということ

(小学六年生)

藤本佐利さんのお話を聞いてぼくが一番心に残ったことは、「なんのために生まれてきたのか」という言葉でした。その言葉を最初に聞いた時、ぼくは、全く生まれてきた理由が思いつきませんでした。「人とつながるため」だと藤本さんが教えてくれて、その通りだと思いました。

今まで、面白い人、楽しい人、怖い人、静かな人などいろいろな人と出会ってきました。仲良くなれた人もいれば苦手な人もいます。その全ての人と今までつながったかと考えるとつながれていないと思います。ぼくは苦手な人とあまり関わらないように過ごそうとしてきました。けれど、苦手な人にはわざとぶつかったり、話しかけてきたら「うるさい」と言ったりしました。少し無視をしたこともあります。そのような行動をすると後で、やっぱり仲直りした方が良かった、仲良くする方法があつたんじゃないかと感じるようになりました。自分が嫌なことを分かってほしい気持ちと、すつきりした気持ちになりたくてした行動だったのかえって心の中がモヤモヤしました。人とのつながりを自分で切ってしまうしました。全ての人と仲良くなることが一番だとは思いますが、苦手な人がいることは仕方ないと思います。そこでつながるのか、つながりを切るのかは自分次第です。ぼくは、つながっていいこうと考えるようになれました。なぜかという、ぼくには少し前、苦手な人で、今、仲の良い友だちがいるからです。苦手だったけど勇気をもって話しかけてみました。その友だちは、乱暴なところがあります。けれど、優しい一面を見つけたたり、知らなかったいいところを見つけたたりすることができました。話しか

けないと知ることができませんでした。今では放課後に一緒に遊ぶことも増えました。友だちといくと楽しく、嬉しくなり心がポカポカします。友だちは多い方がいいと思います。これから一人でも多く友だちとつながり、心がポカポカすることを増やしていきたいです。だから、今苦手な人にも勇気をもって話しかけて、知らないことを知っていききたいです。今は話すと、けんかになつてしまうけれど、相手が何を嫌だと感じているのか考え、話す言葉に気をつけたいです。また、ぼくが嫌なことをしっかり伝えることも大事だと思います。だから話し合うことで相手を知りつながっていくことを心がけていきたいです。

ぼくには、将来、学校の先生になる夢があります。あまり人に言ったことはありません。人に言うのが恥ずかしかったからです。けれど、藤本さんの「なんのために生まれてきたのか」という言葉から、堂々と夢を口に出したいと考えることができました。将来、学校の先生になりたいと改めて思いました。先生になつて仲間とつながることの大切さを伝えてきたいです。

作文【中学生の部】

「LGBTQ」について

(中学一年生)

私は小さいころから柔道をしています。きつかけは、兄と母が柔道をしてきたことです。兄の試合を見に行ったとき、畳の上で真剣な顔をして戦う姿がかつこよくて、「私もやってみたい」と思いました。母も「やってみれば」と背中を押してくれて、年長のときから柔道を始めました。

道着を着て畳の上に立つと、少し背筋が伸びて、自分も強くなったような気がしました。でも、小学校のころ、友達や知り合いから、「柔道って男の子のスポーツじゃないの」と言われたことがあります。そのときは少しモヤモヤしました。私は楽しくやっていたのに、どうして「男の子のスポーツ」と決められるのだろうと思ったのです。

それだけではありません。私は力が強くて筋肉もムキムキなので「女なのに力が強いね」と冷やかされることがあります。確かに握力や腹筋の数値が男子より高いときもあります。昔はそれを言われると恥ずかしいような、変な気持ちになりました。でも今は違います。力があることは私の努力の証です。投げられても投げられても立ち上がり、くり返し技を練習してきたからこそ、今の自分があります。それを恥ずかしがる必要はないし、むしろ誇りにしていいと今は思えます。

柔道も最初は男の子の方が人数も多く、力も強いように見えました。でも私は負けたくありませんでした。足や腕が痛くても、技を覚えるために何度も同じ動きをくり返しました。中学生になった今、県大会で上位に入れるまでになりました。もしあのとき「男の子のスポーツ」と言われてやめていたら、この達成感も味わえなかったと思います。だから私は、スポーツも服も髪型も、人それぞれが好きなものを選んでいいと思います。

そんな私に、もうひとつ大切なきつかけをくれたのが、好きなアーティストの存在です。私は音楽を聴くのが好きで、その中でも「すとぷり」というグループの歌をよく聴きます。特に莉犬さんは、好きなアーティストの一人です。莉犬さんは明るくて元気をくれる歌をたくさん歌っていて、落ち込んでいるときも励まされます。

あるとき莉犬さんのことを調べて、戸籍では女性だけれど、心は男の子として生きていると知りました。最初は少し驚きましたが、それで好きな気持ち

ちが変わることはありませんでした。むしろ、自分の気持ちに正直に生きる姿に勇気をもらいました。莉犬さんは歌や活動を通して、たくさんの人に元氣や安心を与えています。

このことをきつかけに、私はLGBTQという言葉を知りました。Lはレズビアン(女性が女性を好きになる人)、Gはゲイ(男性が男性を好きになる人)、Bはバイセクシュアル(男女どちらも好きになる人)、Tはトランスジェンダー(生まれたときの性別と心の性別がちがう人)、Qはクエスチョニング(自分の性について考えている人)など、いろいろな意味があると知りました。莉犬さんは、この中でいうとTにあたると思います。

私は、こういう言葉や知識を知ることでも大事だと思いますが、何よりも大切なのは「相手を受け入れる気持ち」だと思います。柔道でも、相手を尊重する「礼」から始まり、「礼」で終わります。それと同じように、学校や日常生活でも、相手を否定せず、まずは「そうなんだね」と受け止めることが必要だと思います。

もし友達が「実は好きな人が女の子なんだ」とか「心は男の子なんだ」と話してくれたら、私はきつと「そうなんだね」と笑って聞きたいと思います。そして、今までと同じように接します。その人がどんな人かは、好きな相手や性別だけで決まるものではないからです。優しいところ、面白いところ、頑張り屋なところ、そういう中身こそ、その人らしさだと思います。将来、私が大人になって親になったとき、子どもがどんな服を着ても、どんな夢を持っても応援できる親でいたいです。「男の子だから」「女の子だから」と決めつけず、「あなたはあなたらしくいていいよ」と言えるようになりたいと思います。

柔道で学んだこと、好きなアーティストからもらった勇氣、LGBTQのことを知って考えたこと、それらを合わせると、私の中に一つの思いがはつきりあります。それは「人はみんな、自分らしく生きていい」ということです。スポーツでも服でも、好きな人でも、自分の気持ちを大事にできる社会にしたいです。

私はこれからも、自分らしく柔道を続けていきます。そして、好きな歌を聴いて元気をもらいながら、周りの人の「らしさ」も応援できる人になりたいです。そうやって、みんなが安心して自分らしく生きられる未来を作っていきたいと思います。

集団での陰口による「いじめ」をなくすために

自分ができること

(中学三年生)

自分にとっての「本当の仲間」とはなんだろうか。僕は最近このようなことを考えることがあります。

僕がこのようなことを考えるようになったのは、学校の人権学習の際に議題となった、「悪口」という作文を読んだことがきっかけです。その作文には、悪口を陰で言い合うことによる「いじめ」を勇気のある一言で止めた人のことが書かれていました。作文を書いた人は、その一言を声に出した友人のことを空気の読めないKYだと感じてしまったと書いていました。僕はこの部分を読んだとき、相手や周りの顔をうかがって意見を合わせたらその場ではやり過ごせるけれど、本人がいなくてそこでの陰口は集団での「いじめ」であるため、言いたいことは直接話しあえば良いし、陰でそのような気持ちを持つているのならば本当の仲間とはいえないと考えてました。自分はこれまでに何度かそういった場で空気を読んで相手と意見を合わせてやり過ごしていました。しかし、今の僕は小学生や中学生にかけての僕とは違い、そういった場でも自分の意思を持てるようになりました。中学生になってからの僕は、学級委員に携わったりすることで、たくさん友達や先生とのつながりを持つようになりました。たくさんの人と歩みを進めていくと、自分の言いたいことをしっかりと書いても良いのだと思うようになりました。例えば自分の意見をクラスの意見として取り入れたり、実行委員として様々な行事の運営の中など、自分の気持ちを伝える場での活動です。今度はその意識が日常生活での会話にも影響していきました。それは、人の悪口や陰口を言っているときなどです。僕は少し冗談気味ながらも、「やめとこうや。」の一言が言えるようになってきました。冗談気味とはいったものの、そこで悪口の会話は終わったり、別の会話に移ってみんなが良い気分になることがほとんどでした。しかし、悪口や特に暴言が吐かれている場が、大衆の前だと、勇気が出ず、立ち止まってしまいうことがよくあ

ります。大勢の視線を感じたり、意見の違うみんなの顔をうかがうとどうしてもあと一歩が出ないのです。僕はこのような場で今後やりたいなど思っていることがあります。それは、ダメなことはダメだといえる仲間と声をあげ、複数人で立ち向かうというものです。この考え方は、小学校高学年の時に担任してくれた先生の考え方に通じています。その先生(以降A先生)ははじめの頃から人権学習を行っていました。はじめはいつも人権学習を受けるのが面倒くさいと思っていましたが、A先生の恩師や様々な人たちとの出会い学習を通じて、ダメなことはダメだといえる人になりなさいと学びました。しかし、ダメだという中でも、自分に指を向け、一度振り返って考えるところも教えてもらいました。A先生は僕にとって、人権学習の根本ともいえる考え方を学びました。その考え方を振り返って、今回やりたいと思っていたことを思いいつたのです。幸い、自分の周りには同じ思いを持った最高の仲間がいます。その友達とは生徒会役員や部活などが一緒に、何でも言いたいことを言い合えます。小学校でのA先生の授業でもお互いにしっかりと考え、自分の気持ちを発表していました。だからこれからは今まで以上にその親友を頼り、同じ思いを持った仲間を今よりも更に増やしていきたいと思っています。

他にも僕は今、同じ中学校の1〜3年生や大人たちで、部落差別をはじめとした様々な差別や問題をなくしていこうという組織の一員として毎回考えを深めあっています。そこには、仲の良い部活の後輩や先ほどの親友もいるため、仲間をつくりやすいです。中学生には難しいことはたくさんあるけれど、中学生なら中学生なりにできることを見いだして、身近な人だけでも困ったり辛い思いをしないような活動を行ってきたいです。そのためにもまずは身近にいる頼れる友達や大人に相談したり、生徒会活動を上手く生かすなどして、自分たちの思いをみんなに知ってもらうことが大事だと思います。

標語

【小学生の部】

- ・「気づいてる？」 私の気持ち みんなの気持ち 五年生
- ・いじめゼロ えがお一〇〇の 学校に 五年生
- ・認め合おう 人の個性を大切に 五年生
- ・感じよう みんなに言えない SOS 五年生
- ・見ていても 行動しないと 変わらない 六年生
- ・知ってほしい 私の普通と あなたの普通 六年生
- ・「大丈夫？」 寄りそう言葉で 変わるんだ 六年生
- ・だれにでも 生まれた時から ある権利 六年生

【中学生の部】

- | | | | |
|---------|--------|-------|-----|
| ・ 認め合おう | 自分と相手の | 価値観を | 一年生 |
| ・ おかしいよ | 人で変える | その態度 | 一年生 |
| ・ 関わりで | 大切なのは | 想像力 | 一年生 |
| ・ 壁じゃない | 君との違いは | ドアなんだ | 二年生 |
| ・ ちがいきそ | 尊重し合う | 大切さ | 三年生 |

メッセージ「あなたの大切な人へ」

最優秀賞

〔高校生・一般の部〕

「家族」へ

両親は低身長症の私のために毎日働いて治療薬にお金をかけてくれました。私は両親が毎日疲れて帰って来るところを見て心が痛みました。それを今でも思い出します。私は治療を受けたことを後悔しました。けど、その治療のおかげで今の私があります。私のために毎日働いてくれてありがとう。

（高校1年生）

優秀賞

「家族」へ

私が進路のことで悩んでいるとき、一番に寄り添って話をきいてくれました。夜、家族みんながリビングに集まってゲームしたりお話しする時間が大好きでとても大切な時間です。恥ずかしくて伝えられなかったけど、いつも楽しい時間をありがとう。これからも家族みんなで楽しい時間をつくりたいです。

（高校1年生）

「ママ」へ

私はママのご飯が大好きです。悩んでいる時、疲れている時、心がどんな状態であっても、食べると自然と口角が上がって、「美味しい」とつぶやいてしまいます。いつも「しつこい」と言われるぐらい「美味しい」と連呼してしまうけど、お世辞じゃなくて本音です。毎日私を笑顔にさせるご飯を作ってくれてありがとう。

（高校2年生）

「心友」へ

私はあなたの表情が大好きです。楽しい時は大袈裟だと思うほど大きく笑い、周りもつられて笑ってしまう太陽のような笑顔。そんな笑顔に何度も救われました。でもそんなあなたにも悲しい顔をする時があります。だからそんな時は私があなたの太陽になりたいです。あなたを笑顔にできる存在になりたいです。

（高校2年生）

「パートナー」へ

あなたと出会い人生180度変わりました。今まで楽しくなかったことが楽しくなったり、ネガティブだった自分自身がポジティブに考えられるようになったり。あなたと会えたことで反対の人生を歩むことができている。私は、そんな人生を歩んでいる自分が大好きで、幸せをかみしめています。

（高校3年生）

図画・ポスター

《小学生の部》



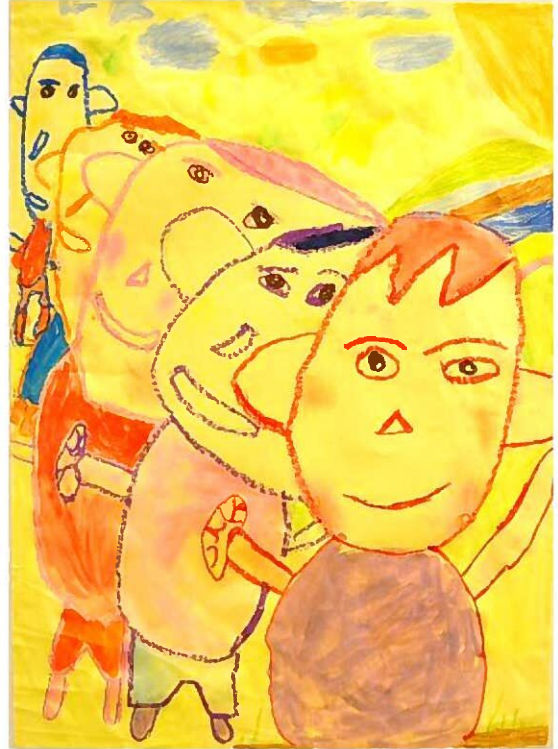
1年生



2年生



2年生



2年生



2年生



3年生



4年生



3年生



4年生



4年生



6年生



5年生



5年生



5年生



5年生

図画・ポスター 《中学生の部》



2年生



3年生



3年生



3年生



3年生

人権尊重都市宣言

すべての人々の人権が尊重される自由で平等な社会の実現は全世界共通の願いである。

しかしながら、現実の社会生活においては人権が侵害される事象が依然として存在しており、これを解消することは私たち全市民に課せられた責務である。

よって、当市議会は、あらゆる差別を撤廃し、すべての人々の人権が保障される明るく住みよい地域社会を実現するため、ここに人権尊重都市宣言を決議する。

平成 3 年 3 月 27 日

名張市



名張市子ども条例に基づく「ばりっ子会議」
考案キャラクター なばりん

—人権作品集—
2026年1月発行
名 張 市
名張市教育委員会
名張市人権啓発まちづくり事業推進会議

この冊子は再生紙を使用しています。